

これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待  
～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～

概要

問題意識

- わが国の競争力を高めるうえで、資質能力の高い人材育成は急務であり、社会全体で真剣に考えなければならない。
- 人材育成の具体論について、産学官で十分な意思疎通が行われてこなかった経緯があり、企業が望む人材の育成はいまだ途上にある。
- これは企業が大学側に求める人材像を明示してこなかった点大きい。

提言の目的

これからは企業も大学の教育内容に対して積極的に情報提供していく責務があることを踏まえ、

- グローバル社会・経済の中で、日本の置かれた状況を踏まえ、求める人材像を示す。
- 求める人材の育成に向けて、企業、大学がなすべきことを提案する。

わが国を取り巻く環境・社会構造の変化と人材育成の課題

(1)企業・社会の変化

- グローバル競争の激化、産業構造の変化（1次・2次産業 サービス関連産業）  
特にここ10年程の技術革新やビジネスサイクルの速さ
- 少子高齢化による生産年齢人口（15～64歳）の減少 将来の社会を支える人材の不足

(2)大学を巡る環境変化

- 大学・短大の進学率50%超（大学全入時代） 大学生の学修時間の不足  
大学生の資質能力の低下懸念
- 雇用のミスマッチ（学生の大企業志向 中小企業の人材不足）
- 新規学卒者3年以内の離職は30%前後で推移、若年無業者やフリーターの増加

教育・採用に関する企業の意識 ～大学との対話を通じて～

(1)企業が求める人材像と必要な資質能力

- 変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力（課題設定力・解決力）
- 困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力（耐力・胆力）
- 多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める力
- 価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力（コミュニケーション能力）

(2)企業が大学に期待する役割

- アクティブ・ラーニングの導入によるコミュニケーション能力の向上
- 様々な社会活動体験の増加：留学、インターンシップ、ボランティア
- 学生の能動的な学びによる学修時間の拡充

人材育成に向けて企業・大学がなすべきこと

(1)企業がなすべきこと

- 企業が求める人材像の明確化と発信
- 採用選考における学業成績の積極的な活用

(2)企業と大学が協力すべきこと

- インターンシップの強化・充実

課題	望ましい枠組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学の組織的な関与が少ない</li> <li>● 企業側の体制、プログラム企画・立案が未整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学での支援体制整備</li> <li>● 大学が関与する形でのプログラム開発</li> <li>● 教員の関与によるPBLの実践</li> <li>● 大学でのより一層の単位化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 期間が短い(1週間程度が主)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期化(1ヵ月以上)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学3年生、修士1年生の参加が主で、参加者が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学部1、2年生からの早期参加により、裾野を広げるとともに、その後の学びに生かす</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 報酬の支給がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 報酬の支給(実費の支給は必須)</li> </ul>

産学連携の一層の推進

- 学生参加型の産学連携研究の拡充
- 実務家教員の受け入れや企業人、社会人による教育の推進
- 社会ニーズを踏まえた教育の推進

大学・学生に対する期待

(1)大学への期待

大学ビジョンの明確化・具体化と機能の強化・分化

国際化対応：優秀な外国人教員の受入れ、英語による授業・情報公開

教職員の資質能力の向上

- 教員評価の徹底と教員の教育力向上：  
学生の就職実績や就職先の評価も勘案した、教育に重きをおいた評価システムの構築に期待。  
海外や学内外から優秀な人材を登用できる体制づくりが必要。  
確かな授業力を備えた高校教員が大学教員に転じ、一層活躍することにも期待。
- 大学職員の資質能力向上：  
学校運営に係る重要な役割を担う職員は、教員と分担して業務の効率化、高度化を目指すべき。  
教員・職員ともに、年功序列型の硬直的処遇から、成果に応じた弾力的な処遇への移行に期待。

卒業生の資質能力の保証

- 教育内容・レベル、学生の到達度の明確化と学業成績への反映
- 卒業資格の厳格化
- 学び・専攻の柔軟化

(2)学生への期待

- 自己のための大学での真剣な学び
- 専門知識とそれを支える基礎力の修得
- 多様な人々と触れ合い、視野を広げるための海外留学等の経験
- 職業観を醸成するためのインターンシップ等の社会経験